麻生区区民会議　第５回　市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

１　開催日時：平成２７年４月２１日（火）午後３時０２分～午後５時０５分

２　開催場所：麻生区役所第４会議室

３　出席者：［専門部会委員］
岡倉委員、高橋委員、石川委員、植木委員、小尾委員、髙倉委員、林委員、宮本委員
（欠席）石井委員、横田委員
［事務局］　井上企画課長、白石、麻生　［コンサルタント］　中島

４　傍聴者　　０名

５　連絡事項
（1）第５回企画部会の報告について
全体テーマが「心がかよう魅力あるまち　あさお」に決定されたことについて報告。
部会長より、ボランティアという言葉が、人のことか、行為のことを指すのか、議論の中で混同している部分があるので、今後は注意したい旨を説明。
（2）各種連絡事項について
・事務局が前回会議で質問事項のあった「地域教育会議」について、広報紙を元に活動内容を説明。
・高橋副部会長より「町会・自治会ガイドブック」が完成し転入世帯に配布している旨を説明
・川崎市政だより麻生区版４月号にて、市民交流館やまゆり、市民館、社会福祉協議会がそれぞれ開設している相談窓口の記事が掲載された旨を説明。←今後、チラシの発行についても要望を出している。
・協働・連携のあり方検討委員会のニュースレターを配布。
←協働の意味について今後の議論に注目したい。
（3）前回会議の振り返り
前回の会議についてコンサルタントより説明。

６　議　事
コンサルタントより、前回の議論を踏まえて、今後の審議の方向として考えられるものとして、単発なボランティア活動から長く続けられるボランティアにつなげる仕組み等について案が出された。また、アルテリッカしんゆりや長野オリンピック、日韓ワールドカップに参加したボランティアへの意識調査等について説明がなされた。
（ボランティアに参加するきっかけづくり）
・資料をみると参加したボランティアは、地域への関心が高くなったとの心境の変化がみられている。長期的な変化については、データが取られていないので不明である。
・単発イベントに参加しやすいのは、期間が限られていることも一因である。期待されている市民活動は先の見えない継続的な活動である。
・体験的なボランティアを開催して参加を促す仕掛けを試したらどうか。
・アメリカなどの先進国では、ボランティアの教育環境が整っている。
・子どもが2002年のワールドカップのボランティアに参加した。その時に仲間ができて、その後、他にも色々な活動に参加するようになった。単発でも参加すると色々な情報が入ってくる。
・学生（小学生から大学生まで）が参加するボランティア活動は、市民活動センターや社会福祉協議会が毎年夏休みにチャレボラ（チャレンジボランティア）の名称で開催している。
・東海道を歩く会という団体があり、以前、ガイド講習を受けてボランティア活動に参加したことがある。講

習からボランティア活動に参加するという流れもある。
・若い人のボランティア参加の意味では、町内会の総会で中学生等若い人が参加することもあり、その時は、と色々な意見が聞けて参考になる。町内会では、盆踊り等地域のボランティアに手伝ってもらうこともある。
・ボランティアを集める仕組みとして、ヤフーのボランティア募集のＨＰなどは参考になる。市政だよりでも案内しているが届いていない。また、ボランティア団体の間で情報がつながっておらず、わからない。
・ボランティアの思いを持つ人に対して、その意思を引き出すことが大切である。短期的なボランティアでも、背中を押すことで意識が変わるのではないか。
・まず、楽しみを目的に仲間が集まり、それから社会貢献の活動へと発展していくことも、多くある。ボランティア活動の前に仲間づくりも必要である。
・仲間を居場所と置き換えても当てはまるかもしれない。
・ボランティア活動に参加するきっかけは単発的なボランティアだけなのか、講座や体験も、仲間や居場所の入り口となるのではないか。

（審議の方向について）
・現在のテーマは「ボランティア活動の促進」としているが、先が見えていない。どのようにターゲットを絞り、何の活動するのか。
・「ボランティア活動の促進」について議論を深めていくには、まず、課題をはっきり決めることで、例えば人が集まらないことが課題なのか、活動の継続が課題なのか、それとも団体の広報が課題なのか、テーマを決める必要がある。
・行政や他の団体との連携や協働がうまくいっている事例を知りたい。ボランティアの情報は探しにくく、色々な団体が多様なところで募集していて、麻生区の中でどのような方法で募集しているのかわからない。麻生区のボランティア団体が行政とどのように連携しているのか調査したい。
・課題を絞り込んだ上での目的がなければ調査できない。また、行政が絡んでいる団体については生涯学習支援課が麻生区地域人材育成連絡会議の中で整理している。
・ボランティアをしたい人が沢山いるという仮説の一方で、人材が不足している団体がある。これをどのように結び付けるのかが課題ではないか。解決策の一つとして、情報発信の課題があげられる。
・ボランティアをしたい人が沢山いるというのは仮説でなく、現実だと感じている。
・ボランティアのコーディネーターや相談窓口の話は、地域人材育成連絡会議の話なので、そろそろ本部会の課題について切り口を狭めていかないと、同じ議論を繰り返すことになる。

⇒本日の審議を図式化して、課題について更に深めていくことを確認した。